
かぐやプロジェクト

椿 さつき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かぐやプロジェクト

【Nコード】

N4812Y

【作者名】

椿 さつき

【あらすじ】

取り敢えずは仮投稿です。

昔に考えたお話で初心者なので文章が下手なのは仕方なしです。取り合えず指摘されながらおします。

昔昔、地球よりも遠く何億光年も離れた星に地球人と同じような人種が居ました。

その星では、地球人が牛舎を乗り物にしてるのに対し、エアーカーと言う空飛ぶ車を乗り回したり、何億光年離れた地球へバカンスに来る人々もいました。

そんな近代的な星のメディアは、あらゆる事をやりつくし、番組のネタに困っている構成作家達が失業すると言う状況に陥っていました。

その中で、ある、売れっ子構成作家がとても斬新でユニークな番組を考えました。

ですが、その番組には多大なお金と素晴らしい協力者が必要でした。

そこで、構成作家はまず、スポンサーを探す事にしましたが、スポンサーは簡単に見つかりました。

この星の食品を扱う大手企業のかぐや食品が構成作家の番組に多大なスポンサー料を支払ってくれる事になりました。

そこで、次に構成作家は協力者を探す事にしました。

ココで、役者じゃないの？と言う突込みをされた方も居ると思いますので簡単に説明しましょう。

構成作家が考えた番組は簡単に言うと、子供を、バカンスの有名な地球に14年間現地に育てさせると言うドキュメンタリー番組で、いかに現地人に気付かれずに14年間撮影するかという番組でした。

なので、協力者は子供を身ごもってる妊婦なのです。

勿論自分の子供を14年間も他人に預ける事になるので、それなりの礼金を用意するためにスポンサーであるかぐや食品を探し当てたのでした。

そう、謝礼は5億円！

そんな中、そのプロジェクトの仮の名前と共に協力者を集めるオーディションが始まりました。

ずばりタイトルは、仮かぐやプロジェクト！

タイトルは、かぐや食品の名を大々的に宣伝するために社名をタイトルにすると言う何とも露骨な宣伝活動なんでしょう汗

オーディションには、数千人の人間が参加しました。

オーディションの参加条件に夫婦で参加と書いてあったので、その日、無断で会社を休むサラリーマンが続出し、ニュースで取り上げられました。

ちなみに、バッチリニュースに顔が映ってしまったリーマンの給料はすっかり削減した会社の数も三桁の数字をたたき出しました。

では、オーディション会場ではどのような面接が行われてるかと言うといったって単純な理由かつスピーディーに進められていました。

あまりの進行の早さに昼にはすでに半数近くの人間がオーディション会場で不合格通知を持ちながら納得いかずスタッフに食って掛かってる夫婦や 会社から電話でクビ宣告や減給宣告に泣きつく父親の姿が多く見られたほどでした。

さて、問題の選考理由ですが、美男美女の夫婦という簡単かつハードルの高いものでした。

構成作家曰、未だ見る事の出来ない子供なので父親と母親で判断するしかないが、不細工な夫婦より美男美女の夫婦の方が、子供も可愛いはずとの事でした。

そこで、数千の夫婦から最終選考に残った夫婦がたった4組でした。

そして、その内の二組は、子供が明日にでも生まれるのではないかと言う緊迫した状況にある妊婦でもう一組は、実は妊娠すらしていないと言うより想像妊娠をしてるカップルで、
違う意味での妊婦でした。

そこで最終的に残った夫婦は一組で出産予定日は、2カ月後と丁度

都合が良いと、いう事で、この鈴木さん夫婦に決定しました。

さて、決定した夫婦には大金が入る事になってるので夫婦の身の安全を考慮して当選夫婦はマスコミ完全シャットアウトで会場は閉会いたしました。

勿論最終選考に残った夫婦達に裏金を渡すのも忘れませんでした。

さて、プロジェクトはどんどん進行していきます。

夫婦立会いの元地球のどの地方の現地人に子供を預けるかを決めなければならぬのですが、鈴木さん夫婦の外見からして、地球の日本と言う国が良いという結果になったので、

鈴木さん達には、その中でどの様な人に預けたいか事細かにアンケートを取り、そして、コンピューターにデータを打ち込みリストを作成する事になりました。

勿論コンピューターには、インテル入ってる！

コア i7 で情報処理したので一億人近く居る国民もすんなり1時間以内に処理できました。

その中で、三組夫婦リストが出ました。

一組目は、子供居ない暦12年42歳夫41歳妻の夫婦、佐藤さん！

二組目は、子供居ない暦5年妻は不妊症！の二人とも28歳伊藤さん夫婦！

残る三組目は、子供居ない暦40年！ここまで行くと居ない暦とかの問題じゃないだろ！汗夫婦、夫85歳 妻82歳の田中源蔵、民子、夫妻でした。

そこで、構成作家は鈴木さん夫婦にお好きな夫婦をお選びくださいとコンピューターのボタンを指差して言った！

「佐藤さん夫妻ならF1ボタン、伊藤さん夫妻だったらF2ボタン、そして、何かの間違いだと思うけど一応リストに入れます田中源蔵さん夫妻だったらF12ってかこれ端に寄せておきますんでボタンを押してください。」

「あーそうそう、ちなみにボタンと番組がリンクされてるんで、押

した時点で番組に告知されますので失敗は許されませんよ。その為のF12なので。」

「では、夫婦でじっくり話し合って決めてください。」

暫く、鈴木さん夫妻はお互い話し合い、どうやら一組目の佐藤さん夫妻に決めたようだ。

理由として、長い間子供が出来てないので他人の子供でも大事にしてくれそうだし、夫婦の顔が優しそうだからと言う理由だった。

そこで、夫がボタンを押す事になり、「では、ボタンを押します！」

その時、そばに居たお菓子大好きAD伊藤君が部屋の緊張感と暑さに耐えながら洪水のような汗の湖と言う自分の領域を広げてる最中だった。

旦那の鈴木さんは気が付かず、AD伊藤君の領域を侵してしまい、その代償に鈴木君の滅多に発動される事の無い鈴木君の特殊能力が発動した！

その特殊能力とは汗で足を滑らせると言ういかにも自然かつ、こっけいな能力であったが、効果は抜群だった！

見事に足を取られた鈴木さん、ありえないF12のキーをしつかり人差し指で押し込んでいたのであった。

その瞬間画面には、田中源蔵さんと民子さんのありえないくらいの笑顔の画像が写っていたのでした。

そんな光景を他人事の様子に鈴木さんの奥さんは我を忘れて眺めているのでした。

さて、とうとう出産一ヶ月前！

前回の劇的な旦那のドジぶりに幾度無く夫婦喧嘩を繰り返した事が、

構成作家は、絵的に面白いから良いけどなどと捨て台詞を残し番組がどんどん進行していく姿を夫婦そろって呆然と見守る事しか出

来なかった。

さて、今回は子供をどの様にして田中源蔵夫妻とのコンタクトを取るか話し合いに参加する事になった鈴木さん夫妻。

そこで田中源蔵さんの職業に注目する事になった。

田中源蔵さんは京都では有名な竹の子堀の達人で、彼が掘った竹の子は傷も少なく市場では高値で取引されているらしい。

さらに言うなら、彼の竹の子は主に貴族が口にする事しか出来ないくらいの高値が付くらしいがそれは、彼の知らない所の話でもある。

なので、田中源蔵さんは自分の知らない所でかなり有名な人物らしい・・・

竹に目を付けたスタッフは、子供を一次マイクロン化し、竹の節に金の発光材と共に入れることに決めた。

勿論発光材は人体に無害らしい。

そして、鈴木さんの子供が大きくなったら、源蔵さんの裏世界の地位を利用し、源蔵さんをお金持ちにさせる計画もしっかり練られていたのは言うまでもない！

源蔵さんの裏世界の地位を知った鈴木さん夫妻は少しほっとしていた。

さらに、言うなれば夫は妻の暴力が少し和らぐかもしれないという理由でも安堵感が沸き始めていたのは言うまでもない。

なにせ、あのうっかりF12事件から妻は妊婦と言う盾で夫が手を出せないのを良い事に殴る蹴るの暴行を働いていた。

しかも、会社にしっかり通えるように打撃を与える箇所は服で隠れる箇所のみと言う徹底ぶり！

夫は会社のトイレで一人涙を流すことも一度や二度は当たり前前状態であった。

プロデューサーがついでに調べた資料によると、一組目の佐藤さん夫妻は、実は子供に暴力を働き近所の人たちが佐藤さんの子供を孤児寺子屋に預けていたのであった。

二番目の妻は不妊症伊藤さん夫婦は、かなりのおタッキー振りで子供を作る作らない以前の問題で毎日アニメやゲームで忙しく、夫婦間の会話もチャットだったりすると言う近所から距離を置かれる夫婦だと判明した。

こうなると、なんだか田中さん夫妻がまともで有力候補なんじゃないかと妙な説得力が出てきた。

その夜の鈴木さん宅では家族会議が開かれていたと言っても二人しかいないので珍しく妻が暴力を振るわない夜だったと言うだけの事だが

夫は暴力は辞めるように説得に入っていた。

そのカツコたる理由はもちろん今日の結果を知ったからである。

そして、妻も納得し、夫は何故暴力を？の質問に妻はマタニティーストレスよ！といかにも、もっともらしい理由をさらっと言つてのけた顔に夫は恐怖していた。

時はソロソロ出産間近に迫った頃最終確認と出産前の健康診断とさらにはお腹の子供の健康チェックのため病院へと鈴木さん夫妻はTV関係者と一緒にでかけていった。

そこでお腹の中の子供が男か女が確認してから番組のタイトルを決める事になっていた。

なぜなら、ほぼタイトルは決まっていたからである。

かぐや食品の「かぐや」と言う文字はスポンサーの意向で使わなければならぬので、その文字に続く言葉が姫か王子しか良い案が出なかったからである。

つて事で、男なら「かぐや王子プロジェクト」になり、女だったら「かぐや姫プロジェクト」になるというとっても安易な案であった。

検査の結果女の子と判明し、タイトルが決まった。

後は、出産を待つのみとなりその日から、取材陣と医療藩が鈴木さんの家に泊り込むようになった。

そして、出産の時を迎えた。

出産は無事行われ、かぐや姫はバカンスで有名な星地球へと送られ、マイクロン化された子供が竹の中に入れられた。

そして、取材班は地球の大気圏外から衛星カメラでその様子を逐一取材するのであった。

ココからは田中源蔵さん視点でお送りいたします。

今日もええ天気、竹林の様子でも見に行くかいのおゝ

今年の竹の子はいつもより質がええ気がするのおゝ

今年はちったあゝ高値でうれるかいのおゝ

．．．．．「ん」．．．．．

なんじゃ？

光つとるわい

なにか、おつかないから避けてとおろつかいのおゝ

「つつ！！！！」

「あんれまあゝ蜂に刺されてしもーたわい」

「ん？」

体が動かん！！

ななななんじゃ？

体が勝手に動いとる！

わしナタ持つて光る竹にむかつとる．．．

やめれえゝゝゝゝゝゝゝゝ

その竹怖いんじゃゝゝゝゝ

切りとおないわあゝゝゝゝゝゝ

なんでじゃゝゝゝゝゝゝゝ

すばーーーーーん！

竹は綺麗に切れてしまった。

だが、切った竹は源蔵さんに向かって倒れてくるではないか．．．

これにビックリしたのは大気圏の向こうからコントローラーで源蔵さんを操っていた取材陣の一人全国アクションゲーム大会3位の實力の持ち主

A D大久保君！思わずコントローラーを手放してしまい、源蔵さんの体が自由になりました。

実は源蔵さん若い頃は何かと剣術にはまり、新陰流免許皆伝の腕前だとか……

持っていたナタで目にも留まらぬ速さで竹を4分割に切り裂き難なく危険を回避してみせた。

そんな姿にスタッフ一同呆然……

さて、源蔵さんの視点に戻してみると源蔵さん、どうやら竹の中に赤ん坊が居るのを発見！

「あんれゝまあゝ」

「うまく収まるもんやなあゝ」

「だれじゃ？こんな酷い事すたんわあゝ」

「この子貰ってええやるか？」

「とりあえず連れて行って、ばーさんと相談すつぺか！」

「源蔵さん宅」

「ばーさん！」

「あたあしや爺にばーさんって言われる年じゃないよ！」

「いや、いい加減その変なプライドすてねえゝが？」

「なゝにいつとるがあゝ女はいくつになつても女なんだつぺえゝ無粋な爺にはわかんねえゝ」

「まゝええわ、それよりこの子みてける！」

「……じーさん……あんだ！誘拐してきたか？……」

「こんのゝ罰当たり！！」

「痛っ！ばーさん違うつちゅーねん！」

「ばーさんって呼ぶのお辞め！！」

「いや、今そんな話どうでもええやろ汗」

「うつさいわい女は・・・」

「ごめん民子さん、謝るから話きいてけるお」

「解ればええだ！」

「この子はなあゝアレが何で何がこれだったわけだあゝ」

「じーさん、一回天国体験入学してくつか？」

「民子さん・・・ごめん・・・誤るからその木刀下ろしてくんろ・・・汗」

この子なあゝ竹の中におったんよゝ何だかなゝ小さいべえゝ？」

言われてみれば、かなりスモールサイズ！

「ほほゝこの子は神様が下さったのかいのお？」

「とりあえず家でぞだてるべえゝかいのおゝ？」

「ええが、乳は出んぞ！」

「知つとるわい！散々乳すつとろおゝが！」

「あらん、じさまつたらん？」

「まゝあれじゃ！愛してんべよおゝ民子さん」

「わたしもだあゝじさま」

その夜、スタッフ一同夜うなされ続ける事になるのです。

次の日は思いつき目覚めが悪いスタッフ一同でした。

次の朝、朝からラブラブな源蔵と民子を観察しているスタッフは吐き気を催しながら観察を続けます。

そして、一人のADがある重要な事を思い出し言葉にしました。

「そう言えば、マイクロン化解けるの今日じゃなかったっけ？」

そう言えば、昨夜の源蔵と民子の夜の生活を見せられたスタッフ一同半ば人生を捨てざるを得なかったとは言え、

本来の目的を忘れてしまつてブルーになつてゐる場合じゃなかったのです。

マイクロン化が解けると赤ん坊は本来の大きさに戻るので、突然大きくなつた子供をみたら、源蔵も民子も心臓発作でも起こりかねない！

そんな、宇宙の外の心配をよそに、源蔵が赤ん坊を見てなにやら叫んで民子を呼んでるではないですか」

「おゝい、民子やあゝ来てみい」

「なんだい？源蔵さん、昨夜の続きだったら朝からできねえーど！」

「・・・何言ってるだ？」

赤ん坊みてみろや！」

「あんれゝまあゝこりやゝどーしたことだべえゝ！」

「つてか大きくなって何だか得したなやあゝ！」

「民子・・・お前もそう思ったかあゝ？」

「んだなあゝラッキーだわやあゝ」

いいんかいそれで！

と言う地球の外からの突っ込みは勿論届くはずも無く時は過ぎていくのです。

さて、物語はアイデアの都合と文字数の都合で時間が過ぎてゆきます。

赤ん坊だった子供も既に大人の女の子の色香をかし出し始めた頃でした。

女の子も１２歳になり、娘の名前も色んな都合上「かぐや」って事になりました。

それは、毎夜源蔵さんに全宇宙睡眠学習講師会実力No.1教師の飯田さんが「娘の名前は、かぐや」

とマインドコントロールしたおかげでもあるかと思われます。

まゝそんなこんなで、かぐやも１２歳、その美貌は両親譲り！

美男美女の子供はやはり美女だったと言う事でしよう。

そして、かぐやプロジェクトの視聴率も40%をたたき出すモンスター番組へと成長し、かぐや食品の株価も上りまくり状態です。そう言えば鈴木さん夫妻ですが、どうなってるのでしょうか？

結構どうでもいい事なんですが、ちゃっかり二人目作ってました。しかも、娘が稼いだお金で家を買って、優雅に暮らしてました。

娘の事なんて忘れてるのかと思ったところすっかり番組はチェックしてるらしいです。

二人目の息子にこの子がお前のお姉さんだよ！このお家に住めるのもお姉さんのおかげなんだから帰ってきたら感謝しなさい！
としっかり子供に言い聞かせる所は幸せ家族計画ですね。

では、心のシコリも取れた所で本題に戻りましょう。

12歳のかぐやは、京の都でかなりの有名人でした。

それは、彼女の美貌のせいでもあり、京の人々は彼女の美貌を称え千里を走る美貌と彼女に憧れの目を投げかけました。

そんなこんなで、そんな美貌の持ち主であるかぐやを貴族の独身連中がほっておくわけが御座いません。

毎日のようにかぐやの家へ求婚におとづれる貴族が後を絶たないほどでした。

ですが、かぐやはのりくらりかわし続けていました。

その頃かぐやには、ある疑問があつたからです。

それは、自分は源蔵と民子の本当の子供なのだろうか？

まゝもつともな理由ですよね。

この源蔵と民子の年齢で子供が作れ無いと言う疑問はさらさら無かつたが

この二人の無限とも思える体力とテンションに自分は付いていけないと言う孤独感を感じつつ

求婚に来る貴族はダサダサだし……

あたし、本当にココの家の子供かなあ……ってえ……感じ？

そんな疑問を感じながらある夜の事です。

かぐやが何時もの様に携帯の出会い系サイトの桜のバイトをしてる時に、頭の中でかぐやだけに響く声が聞こえました。

それは、何だか懐かしいような感じのする声でした。

だって、鈴木さん家族なんですもん。

って事で、家族初の会話です。

「かぐや・・・」

「誰？」

何処から話してるの？」

「私は、お前の本当の父親で、今宇宙からお前に話しかけてます。」

「宇宙ってなに？」

「あああゝそうだね、宇宙って言っても解らないよねゝえゝっと・・・

・
そうだ、今夜空にお月様が見えるだろ？」

「ええ見えるわゝ今日は丁度満月ね！」

「そうそう、その月からお前に話しかけてるんだよゝ」

「え？月から？」

貴方は月に住んでるの？」

「ん？・・・まあゝそんな所かなあゝ」

「それで、月にすんでる人が私に何の用事があるの？」

「いや、最初にお前のお父さんと言ったけど、あれ、かなりマジメだからね！」

「まじで？あたし月生まれなの？」

「あ・・・あああゝまあゝそんなとこだ。」

「ってかあゝ何で今頃出てきたわけゝ？」

「いや、まゝ色々と都合があつてお前に話かけられなかったんだよゝ」

大人の都合つてやつだなゝ」

「なるほどねゝ都合の良い言い訳見つからないから適当に答えたつて訳ね！」

「いや、何でお前はそんな事言うんだ？親の顔が見てみたいわ！」

「ってかあんたなんでしょ？私はあんたの顔知らないけどさ！

わざわざ捨てた子供に説教しに話しかけに来たの？」

「いや、……ごめんなさい……かぐやちゃん、そんなに怒らないですよ」

パパな～今すんごくお金持ちになったんだよ～それで、やっとお前を迎えに来れそうなので

今のうちに連絡をしておこうと思ってな～」

「マジで？じゃ～さー何時来れるん？」

「ん～色々申請手続きがあつてな～お前が14歳になった誕生日に迎えに行くから」

それでな～何だかその話をTV局の人が聞いたら、協力してくれるって言うんで、迎えに行く時はちよつと取材付かもしれんが、

それは、我慢してな」

「うん、わかった」

（ だけど最近なんか、私に結婚申し込んでくる芋が増えてうざいのよ ）

どうにかカワシテいるけど誰かにさらわれそうだわ～特に石作皇子と庫持皇子と右大臣阿倍御主人と大納言大伴御行と中納言石上麻呂がうざいわ」

「んじゃ～石作皇子には仏の御石の鉢、庫持皇子には蓬萊の玉の枝、右大臣阿倍御主人には火鼠の裘、大納言大伴御行には龍の首の珠、中納言石上麻呂には燕の子安貝を取ってきたら結婚してやると言いなさい。」

「なんか、どれも噂で聞いたことあるけど伝説の宝物ね～解つたわ～そう言ってみる」

次の日の夕暮れ時にかぐやは、例の5人を集め父のいった言葉を伝えた。

期限は自分が14歳になる誕生日までと言いそして、5人はそれぞれ旅路の支度に家に帰っていった。

そして、数週間が過ぎた後に石作が仏の御石の鉢を持って現れた。

そこで、人間国宝陶芸一筋50年源蔵との将棋戦績850勝920

敗が偽物と判断し、ばれて敗退！

阿倍はそれは燃えない物とされていたのに燃えて自分まで燃え尽きてしまった。

大伴は嵐に遭って諦めママに泣きつきあわなく敗退。

石上は大炊寮の大八洲という名の大釜が据えてある小屋の屋根に上って取るうとして腰を打ち、ぎっくり腰になり断念した。

庫持はというと、探しに行ったつきりついには戻っては来なかった。

家来の話によると皇子は恐ろしく方向音痴らしくお供もいないと家にも帰れないらしい。

そんなこんなで月日はあつという間に過ぎて、かぐやの14歳まじかのある夜の事でした。

かぐやが、源蔵と民子に話があると言い家族会議を開き始めました。

「源蔵、民子良く聞いて！」

「なんじゃ？つてか親を呼び捨てにするんじゃない！」

何回いわせるんじゃない！わしの事はパパ〜んと呼べというところ〜が！」

「そんな気持ち悪い事言えるわけないだろ！」

つてか〜私〜あんたらの本当の子供じゃないし〜」

「何って事言うの！私のこともママ〜んって呼びなさい！」

「つてかそつちかい 汗 かなりの時間差の突込みねえ〜！」

「ついでに言うけど、お前は私がおなかを痛めて生んだ子よ！それこそ80過ぎの私が生むにはかなり辛かったわ！」

「ついでなんかい！」

つてかマジマジメに聞いて！」

「・・・お前それかなり寒い親父ギャグじゃぞ！」

マジマジメってそんなギャグセンスじゃ京の町では暮らしていけないぞ！」

「おいしい源蔵ギャグじゃないから汗

もう、言うわゝあたしいゝ14の誕生日に月に帰るからゝ」

「ん？そっかゝんで何時帰ってくるんじゃ？」

「つてか修学旅行とかそんなんじゃないから汗

本当の父親が迎えにくるらしいわ。

親父どうやら月に住んでるらしいわゝ」

「そんな、迎えに来る言われて、はいそうですかって諦められると思ってるのか？」

わしらの老後の世話誰がみるんじゃ？」

「そっちかよ汗

そっという話は、親父と話付けてくれ！」

「良し解った！」

「つてか何か簡単に家族会議終了しちゃったなゝ10分しか経ってないわ汗」

そんなこんなで、かぐやの誕生日の前日の夜に父親から連絡がありました。

「もしもしゝかぐや元気してたゝ？」

「何でそんなフレンドリーなの？」

「いや、まあゝ父親だし、駄目？」

「まゝ良いけど・・・」

「よかった。

それで、明日迎えに行くけど時間どうしようか？」

「ああゝ何か源蔵が話したいって言ってるよゝ」

「そっかゝ一応かぐや育ててもらったわけだし、お礼も言いたいからそゝだなゝ」

夜にするかゝ？」

「わかったゝ源蔵に話しておくわゝ」

なんとも、長距離電話みたいな会話ですがまゝそれはあれなので汗

つて事で時間も次の日の夜、かぐやお迎えの瞬間がやってきました。

源蔵と民子は一張羅を着て父親を待ち構えていました。

まだかまだかと源蔵はうろつろと廊下をうろついていたら突然月から大きな鳥のような物体が現れました。

「ねえ、源蔵、あれじゃない？」

かぐやが指差した先に鳥のような影がこちらへ向かって、どんどんその存在が大きくなってきます。

そして、家の前の空き地まで来た所で突然鳥のような物体から人が数人降りてきました。

その中に、かくやに面影が似ている男性が一人、女性が一人いました。

かぐやは直感でその二人が自分の家族なんだと理解しました。

そして、父親に駆け寄ろうとした瞬間源蔵に腕をつかまれ、勢いをそがれ少し後ろによろめきました。

その瞬間源蔵は持っていたナタを、かぐやの首元に当てて、叫びだしました。

「おまえら、何処の銀河系の奴らだ？」

俺を捕まえに来たのか？俺が金庫破りの源蔵だつて何時ばれた？」

「ええええええええええ!!」

全員が予期せぬ展開にビックリ！

かぐやにいたっては何が起きてるかまるで理解できない様子。

民子はと言うと今まで愛嬌があつた顔が突然平気で人を殺しそうな冷たい目に豹変した。

「お前らあたし達が、銀河盜賊青い牙と知って来たんだろ？」

なんだい、そのTVカメラ、勝手に写すんじゃないよ!」

「源蔵……民子……なんの冗談なの？」

かぐやが苦しうに源蔵の顔を見ながら話しかけた源蔵の顔はただ、見たことも無いような冷たい微笑を見せるだけだった。

「おまえら、宇宙警察を呼んでるんだろ？」

勝手に出てきたらこの女殺すからな！

いいか、こちらの要求にまず応えてもらうぞ！
勝手な事するなよ！！」

民子は何処に隠してきたのかと言うほど大きなバスターランチャーと小型のレーザー銃を手にして、源蔵にレーザー銃を手渡した。

「おら、まずあんた達が乗ってきた宇宙船から全員出てもらおうか！

早くおし！！」

民子の怒鳴る声と共に宇宙船の中から数人人が出てきた。

「これだけかい？

もう、居ないだろうね？」

「はい、これで全員です」
ディレクターが応える。

「あんた、乗り込むわよ！」

「おう！」

「ちょちよつと離してよ！」
かぐやが叫ぶ。

そして、ついでに鈴木さん夫婦も叫んでみる。

「駄目だ、お前は大事な人質だ！
安全な所までは一緒に居てもらう。
わかったな！！！」

お前らも勝手な事したら、こいつ殺すぞ！」

全員が無言で答える。

実は、かぐや姫プロジェクト、最終回特別編としてこの番組は生放送だった。

そして、国民が見てるTV画面は途中から綺麗なお花畑の画像で「暫くお待ちください」の文字が流れているが
しっかり宇宙警察には伝わっている事は言うまでもない。

源蔵と民子は宇宙船に乗り込み空高く舞い上がって行った。

そして、大気圏を越えた当たりで宇宙船が突然の衝撃を受け、宇宙警察に身柄を拘束されてしまった。

その頃、地球に取り残された取材陣と鈴木さん夫婦はというと、啞然と見送る中、妻は突然の出来事でただ泣き崩れるばかり。

夫はというと、かぐやとの思い出を思い起こそうとして、数時間の会話の内容しか思い出せず後はテレビの画面のかぐやを一方的に見てるだけと言う

何とも惨めな思い出に後悔と悔やみを噛み締めていた。

そして、そんな中、突然現れた宇宙船に誰もがビックリ！

宇宙船から現れたかぐやを見て鼻水たれまくりの母親がかぐやに抱きついてくる姿を見てかぐやは思わず母親をかわし母親はかぐやの後ろに居た

全国アクションゲーム大会3位の實力の持ち主AD大久保君に抱きついてしまい、大久保君もしっかり抱きしめて

「そんなに俺の事を・・・」

すっかり勘違いと妄想を繰り返すのであった。

そんななかぐやはというと・・・

「お・・・お父さん？」

「ああーそうだよ！」

目につつすら涙を浮かべるかぐやに父親は両手を開いて抱きしめる

準備OK状態！

そして、かぐやはその胸に飛び込み、その姿は宇宙船の逆光でまぶしいほどシルエットしかカメラには写らないが

全国民が親子の再会に涙を流したその瞬間最高視聴率は58%番組始まって以来の高視聴率だったと年末の特別番組でかぐやは知る事になる。

END・・・かな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4812y/>

かぐやプロジェクト

2011年11月17日18時44分発行